

2014.9.1 第1152号
ISSN 0913-0217

発行人/長 瀬 清
発行所/北海道医師会
〒060-8627
札幌市中央区大通西6丁目
TEL(011)231-1432
FAX(011)221-5070

北海道医報

2014

9

月号



北海道 美の遺産

繁野 三郎

道庁南門通

北海道立近代美術館 所蔵

CONTENTS

北海道医報
平成26年9月1日 第1152号

指標／「控除対象外消費税」問題の抜本的解決へ向けての展開……………	岡部 實裕……………	3
医の倫理綱領……………		7
速報／平成26年度 北海道医師会賞受賞者決定！……………		8
日本医師会綱領……………		9
新都市医師会長の紹介……………		10
都市医師会長からの抱負……………		12
報告／相談窓口利用者とコーディネーターとの懇談会……………	藤井 美穂……………	16
報告／平成25年度 地域保健等に関する調査研究助成……………		18
投稿／高齢者救急と患者情報－医療連携システム 患者ICカードの運用の現状		
土肥 修司、新井 一、塩越 順一……………		30
最新・医事紛争Q & A／患者の診療拒否への対応……………	黒木 俊郎、武市 尚子……………	34
税務相談室／平成26年度税制改正（その1）……………	中村 孝一……………	36
北海道医歌人会詠草……………		37
報告／第48回北海道ドクターズゴルフ大会開催報告……………	花輪 和夫……………	38
会員のひろば……………	菊川 晴美、竹井 俊樹、葛西 孝健、西川 益利、後藤 義朗、 安藤 敬子、浦澤 正三、今本千衣子、佐竹美恵子、方波見康雄……………	42
ポラリスを仰ぐ北の大地から……………	石澤 秀明、小林 正司……………	54
大通公園を望む窓辺から……………	長瀬 清、松家 治道……………	55
医学会・医学講演会等 開催情報……………		56
中央56 道南61 後志62 日胆63 空知64 道北65 北見68 道東69		
日医認定産業医制度研修会開催一覧……………		72
訃報……………		74
新規指定医療機関……………		74
道医の動き……………		75
会議室／第9・10回常任理事会……………		76
道医師国保の頁……………		80
売貸医院・医師招聘情報……………		84
季節風／日本の未来図は？……………	藤井 美穂……………	92

お知らせ

厚生労働省『2つの臨時給付金』チラシ・ポスターの設置および掲示等について⑥

厚生労働省『持分なし医療法人への移行促進策のご案内』パンフレットについて⑮

「応急手当WEB」「救急医療啓発パンフレット」へのリンク依頼について⑳

緊急臨時的医師派遣事業「協力医療機関認定制度」について㉑

2015年版医師日記（手帳）の申込み㉓／北海道医師会サポートセンターのご利用㉗

北海道医師硬式テニス大会のお知らせ㉙／女性医師等支援事業を推進しています。㉛

電子メールによる会員への情報提供㉝／第41回 全道医家囲碁大会開催のご案内㉟

産業医研修会開催のお知らせ㉞／『設立に認可を要する法人に関する行政評価・監視結果に基づく勧告を踏まえた医療法人に対する指導監督の徹底』について㉟

日本医師会作成『心肺蘇生法C A B+Dカード』について㊱／グループ保険のご案内㊲

北海道医師会会員数	8,267名 (+8)	うち日本医師会会員数	5,875名 (+9)		
A	2,500名 (-3)	B2	4,544名 (+14)	C2	152名 (+1)
B1	598名 (+3)	C1	111名 (±0)	C3	362名 (-7)

平成26年7月31日現在 () 内前月比

作品紹介

しげの さぶろう

繁野 三郎 道庁南門通

1894（明治27）年～1986（昭和61）年

札幌生まれ。

1927（昭和2）年の作品。水彩・紙（38.8×49.8cm）。

北海道師範学校で菅原翠洲に学ぶ。卒業後は栗山小学校の図画主任を経て、札幌の北九条小学校へ赴任。北海タイムスの美術記者だった澤枝重雄のアトリエで、デッサンを学んだ。

多くの水彩画家が新しい技法を求めていく中で、自分の画風はもう古いと言いつつも、透明水彩で色鮮やかな風景画を描

北海道美の遺産

写真・資料提供：北海道立近代美術館
（札幌市中央区北1条西17丁目 011-644-6881）

き続けた。決して新しい絵画ではなかったが、描きたいものと思うまま絵にした作品は、繁野三郎の個性であった。

個展を開催し、子どもたちに絵を教え、水彩画を好む人々と集まって、四季折々の風景を描く。作者は91歳の生涯を終えるまで、水彩画を愛し続けた。

日本水彩画展（1928年）で初入選を果たした本作品。このとき作者は、東京まで展覧会を見に行き、会場で有名画家の作品にはさまれた自作の脆弱さに、衝撃を受けたという。

以降、展覧会の折りに上京。札幌では見ることのない紙や技法、東京の画家たちとの交友は、作者を大いに刺激した。